令和８年度第１回　静岡市梅ケ島ワイン生産地化検討会　会議録

１　日　　時　　令和８年６月16日（火）　14時00分～15時30分

２　場　　所　　静岡市役所　新館８階　市長公室

３　出 席 者　　【委員】
神成委員、種本委員、川島委員、柏原委員、小泉委員、島津委員
【静岡市】
難波市長
（事務局）
環境局：佐藤森林経営統括監
中山間地振興課：岡本課長、関本課長補佐、渡辺主査、佐野主任主事
社会共有資産利活用推進課：鈴木担当課長、本多係長、磯部主査

４　傍 聴 者　　０人

５　議　　題　　梅ケ島ワイン生産地化計画の目的と目指す方向性について

６　会議内容

（１）開会

（２）あいさつ（難波市長）

（３）委員紹介・会長の指名

静岡市梅ケ島ワイン生産地化検討会設置要綱第５条第２項に基づき、市長の指名により、神成委員を会長に選出。

（４）梅ケ島ワイン生産地化計画の目的と目指す方向性について

事務局から資料に基づき説明を実施。（資料１－１及び１－２）

（５）議事「梅ケ島ワイン生産地化計画の方向性について」

事務局から資料に基づき説明を実施。（資料２）

―意見・質問―

・（柏原委員）ガストロノミーツーリズムの流れも踏まえ、ワイナリーのみでなく、宿泊や食等を含めた複合的な整備が必要である。

・（種本委員）資料に示された醸造規模で、民間事業者の事業として成立するのか。
→（事務局・神成会長）資料で示した醸造規模は最低限の数値であり、実際の規模や手法は民間事業者の提案により変わっていく。
・（島津委員）令和８年度の事業者公募は何を担う事業者を想定しているのか。
→（事務局）主に醸造所の整備を行う事業者を想定している。
・（神成会長）事業者公募にあたり、応募者の不安やリスクを下げるため、市が提示すべき条件（醸造所やブドウ栽培候補地、土壌・気象・環境情報等）を整理する必要がある。
・（種本委員）ブドウ植栽から収益化まで相当な期間を要するため、その間の資金繰りが課題である。
・（川島委員）ワイン事業単体での早期の黒字化は難しいため、補助金や他事業での収入が必要である。
・（小泉委員）地域の人が関わっていけるのか不安に感じる。
→（川島委員）ブドウの品種ややり方を工夫すれば地域の方も関わっていけるのではないか。大学や農業高校との連携も良いと思う。
→（種本委員）若年層の就農や移住に繋がれば地域の活性化になる。
・（小泉委員）鳥獣被害が深刻であり対策が不可欠である。